

# 2016 年度

## アメリカ留学報告書

留学先：ノースウェストミズーリ州立大学

留学期間：8月24日（木）～12月17日（日）

新潟国際情報大学  
国際文化学科  
学籍番号：21015011  
石橋香音

## 目次

1	留学先及び留学期間	3
2	留学先概要	3
3	留学目的	3
4	留学内容	3
	4 - 1 留学のスケジュール	3
	4 - 2 詳細	5
5	所感	7
6	おわりに	7
	謝辞	7

## 付録

	課外活動	9
--	------	---

## 1 留学先及び実習期間

留学先：ノースウェストミズーリ州立大学

留学期間：平成 28 年 8 月 24 日（水）～平成 28 年 12 月 17 日（土）

※帰国は 12 月 18 日（日）

## 2 留学先概要

### (1)大学について

ノースウェストミズーリ州立大学は、ミズーリ州北西にあるメリービルという町に位置する。メリービルは人口約 1 万人の小さな町で、自然豊かな場所である。大学は 1905 年に設立され、約 6,800 の学生が在籍している。世界 32 ヶ国と米国内 45 州から学生が通っている。学生の大半は大学の寮又は大学近くのアパートなどでシェアルーム、シェアハウスをして暮らしている。

### (2)大学で行われている教育について

ノースウェストミズーリ州立大学は、各種学部と特別な大学院課程を提供している。特に、ビジネス、コンピューターサイエンス、教員養成教育、生物学科、農業の分野に重点を置いている。今回お世話になるコースは、英語を第二言語とする学生のための英語に特化した教育を行うものである。受講する人数に応じて一クラス約 20 名のクラスが編成される。リーディング、ライティング、スピーキング、リスニング、文法、アメリカンカルチャーの授業が行われる。

## 3 留学目的

今回の留学の目的は、英会話のスキルを上げること、アメリカの文化に触れ、理解することである。中学校や高校の英語の授業で習った英語力や、現在大学で必修となっている授業だけでは、将来社会に出る時に自己の英語力に十分に自信を持つことができないと感じた。実際、多くの企業に他国の人々と英語で会話しより良い交渉を行える人材が求められている。授業では、しっかりと英語を言語として学び、それを生活の様々な場面で使えるようにする。大学の寮に住むことで、現地の学生とも積極的にコミュニケーションをとるように心がける。

また、異国で暮らすという経験により、視野を広げ、人生における経験値を上げることも期待する。11 月の後半に行われる 5 日間のホームステイでは、大学の寮では体験できないアメリカの家で暮らすという体験をする。アメリカの文化や慣習等を自分で発見し、それを十分に理解し、日本と何が違うのかを比較する。

## 4 留学内容

以下から留学の内容を記述する。

### 4 - 1 留学のスケジュール

留学期間中のスケジュールは以下のとおりである。

月	日 (曜日)	内容
8	24 (水)	到着
	25 (木)	オリエンテーション
	26 (金)	キャンパスツアー
	29 (月)	TOEIC テスト
	30 (火)	ESL クラス
9	16 (月)	ESL Field Trip オマハ
	19 (火)	ESL クラス
10	10 (月)	中間テスト
	16 (日)	Farm Trip
	17 (月)	ESL クラス
	27 (木)	Field trip カンザス
	28 (金)	Flag raising ceremony
	31 (月)	ESL クラス
11		
	21 (月)	Field trip メリービル高校
	22 (火)	ESL クラス
	23 (水)	サンクスギビングブレイク
12	28 (月)	ESL クラス
	12 (月)	期末テスト

	15 (木)	ESL パーティー
	17 (土)	出発

#### 4 - 2 詳細

スケジュールに記載してある各項目の内容は以下のとおりである。

##### i)ESL クラス

英語を第二言語とする学生のための英語に特化した授業である。今学期は、日本、韓国、中国、サウジアラビア、メキシコからの学生が参加した。初めに行われる TOEIC の成績により二つのクラスに分けられた。授業の時間割、内容は以下である。尚、以下はグループ A のものである。

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日
9:00~9:50	リーディング			
10:00~10:50	ライティング			
11:00~11:50	文法			
12:00~13:00	休憩			
13:00~13:50	リスニング スピーキング			
14:00~14:50	NUIS プロジェクト	TOEIC preparation	アメリカン カルチャー	TOEIC preparation

・リーディング ライティング……リーディングでは、教科書のテキストを読み、内容を理解し、その内容についてディスカッションをする。ライティングでは、各ユニットが終わるごとにその内容についてエッセイを書く。テキストに登場する単語などを覚える等の宿題が課される。

・文法……教科書に準じて文法を学ぶ。オンラインの宿題が課される。

・リスニング スピーキング……リスニングでは、教科書のテキストの内容を理解し、その内容についての録音されたレクチャーを聞き、メモの取り方等を学ぶ。スピーキングでは、アメリカの歴代大統領や歴史上の人物についてグループや個人で調べ、原稿やパワーポイントを作成しプレゼンテーションを行う。

・NUIS プロジェクト……国際情報大学からの学生のみを対象にしたクラスである。アメリカでの生活について全学生でビデオを作成する。

・TOEIC preparation……問題集をもとに、学期末に行われる TOEIC の対策をする。

・アメリカンカルチャー……1 グループ 5、6 人のグループに分かれて、アメリカの文化や習慣について学び、現地に学生にアンケート調査などを行い、その結果をもとにプレゼンテーションを行う。また、ゲストを招待し、様々な分野についての講義を受ける。

備考……毎週金曜日は国際情報大学の学生が受ける授業はない。

#### ii) ESL Field Trip オマハ

バスでオマハ市の動物園を訪問した。5人ほどのグループに分かれて園内を周り、いくつかの質問に答える課題が課された。園内のレストランで揃って昼食をとり、午後は近くのショッピングモールでの自由時間があった。

#### iii) Farm Trip

バスで大学から少し離れた場所にある大きな農家を訪問した。ホストファミリーも一緒に参加することができた。農家の敷地内を案内してもらい、メリービルの農場について学んだ。釣りやバーベキュー、カボチャのペインティングなどの体験をした。

#### iv) Field trip カンザス

バスでカンザスシティを訪問した。道中にあるビュッフェ形式のチャイニーズレストランで昼食をとり、ネルソンアトキンス美術館を訪問し、カントリークラブプラザで自由時間が設けられた。美術館では様々な国からの絵画等の美術品が展示されていた。アジアの美術品も豊富にあり、特に中国エリアの美術品が充実していた。日本の鎌倉時代の工芸品なども展示されていた。プラザでは3時間ほどの時間があつたが、広すぎてすべてを見て回ることができなかつたが、メリービルでは見られない街並みを楽しみながら買い物をする事ができた。

#### v) Flag raising ceremony

インターナショナルスチューデントのための、大学敷地内に各出身国の国旗を掲揚するというイベントである。希望者は自国の伝統衣装を着た。日本の学生の希望者は浴衣を着た。普段は見ることのできない他国の伝統衣装を見て楽しむことができた。

#### vi) Field trip メリービル高校

大学の近くにあるメリービル高校を訪問し、一人に一人ずつ高校生のパートナーがつき、その高校生と共に高校の通常の午後の授業を受けた。アメリカの高校の授業を地元の生徒と一緒に受けるというとても貴重な体験ができた。

#### vii) サンクスギビングブレイク

11月24～25日がサンクスギビングデーというアメリカで大切な祝日であるため、大学は23日～27日が休講であった。サンクスギビングは日本のお正月と似ていると感じた。家族や親せきであつまり、七面鳥をはじめとする伝統的な家庭料理を食べるのが一般的である。大学の寮が閉まるため、ホストファミリーや友達の家泊まった。ホストファミリーや親せきの方と出会い、その家で共に過ごし、文化や習慣を肌で感じ、伝統料理を食べたことは素晴らしい体験であった。

#### viii)ESL パーティー

一人一人に修了証書が渡され、持ち寄った料理やケーキなどを音楽やダンスと共に楽しんだ。

### 5 当初目的の達成度

今回の留学の目的の達成度について、それぞれまとめる。

#### i)英会話のスキルを上げること

初めのころと比べて、格段に上がったと言える。留学初めのころは、先生や周りの学生の話すことに対してイエスかノーで簡単に答えることで精一杯であった。しかし、大学で学び、寮で生活し、現地の人々と過ごす時間が長くなるにつれ、だんだんと自分からも話しかけられるようになり、会話もスムーズに続けることができるようになった。授業では、積極的に挙手し発言するように心がけ、質問があればためらわず質問することができた。

#### ii)アメリカの文化や習慣を学び、日本との違いを比較する

リーディングやリスニングの授業のテキストがアメリカの文化をもとにした内容であったため、アメリカンカルチャーの授業だけでなく、様々な分野からアメリカの文化や習慣を学ぶことができた。また、アメリカの大学、寮での生活、友達との遊びの中、ホストファミリーと過ごした時間など、日常生活で常にアメリカを感じることもできた。

#### iii)視野を広げる

異国の地で4ヶ月間生活し、様々な新しいものを見て、体験をすることで、視野は確実に大きく広がった。また、ESLの授業ではディスカッションの時間が多くあり、他の国からきた全く違う考えや文化を持つ人々とそのような授業を受けたことで、アメリカのことだけでなく様々な人々と交流できたこともとても良い経験になった。

### 6 反省・課題

アメリカで過ごし、アメリカの大学へ通った四ヶ月間の留学は、非常に多くのことを学ぶことができ、有意義な時間であった。さらに、英語を自分のものにして使いこなすには今のままではまだまだ不十分であると再認識し、課題を見つけることもできた。今回の留学で得た経験、英語のスキルを、これからの人生に活かし、課題を達成していきたい。

### 謝辞

今回、ESLクラスにおいて授業から生活面まで懇切丁寧な指導をしてくださった Dr. Foot、Helen Konstantopoulos 先生、Hardee Nancy 先生、ホストファミリーの Bob さん、Marilyn さん、その他大勢の関係者の皆様に深く感謝申し上げます。また、本学のアメリカ留学担当で出国準備の手続き、留学中のサポート、帰国後の各種活動への指導を賜りました、藤本直

生先生、矢口裕子先生、佐藤泰子先生、小林伊織先生には心より感謝いたします。最後に、本新潟国際情報大学からいただきました奨学金により、留学の参加が実現し、有意義な体験ができたことを、心から感謝いたします。



## 付録：課外活動

ESL に所属する学生のための授業以外のプログラムを紹介する。

### i)カンバーセッションパートナープログラム

ESL の学生 2 人、大学生 1 人の合計 3 人のグループが作られ、1 週間に 1 回 1 時間英会話をするという内容である。時間、場所、会話内容はすべて各グループの自由である。授業では習わないようなもっと身近なこと、今学生に流行っていること、学生がどんな生活をしているかなど、自分たちと同じ年代の学生との交流ができるプログラムである。初めのころは会話が続かなく、1 時間という時間が果てしなく感じだが、だんだんとお互いのことを知り、たくさんのお話をするようになり、有意義な時間を過ごせるようになった。このプログラムでチームメイトにならなければ知り合えなかった可能性のある学生と交流でき、友達になることができたのはとてもよかった。

### ii)アクティビティーバディープログラム

ESL の学生 1 人と大学生 1 人が 1 組となって、1 週間に 1 回大学のイベントや他のアクティビティーを共に行うという内容である。大学では、コンサートやダンス、スポーツ大会、スポーツ観戦、ハロウィンパーティー、ビンゴゲーム、カードゲーム、カジノ、鬼ごっこのようなチーム対戦形式のもの、宝探し、ゲストによる講義、1 ドルディナー、イルミネーション点灯式など、ほぼ毎日のようにたくさんイベントがキャンパス内のどこかで行われている。日時、場所、内容はすべて自由でその二人で毎週話し合っ決めて決める。大学内のイベントだけでなく、そのパートナーの家に行って夕食を食べたり、カードゲームをしたり、どこかにショッピングにでかけたりすることもアクティビティーになる。楽しみながら、体を動かしながら時間を共に過ごすことにより、お互いの距離を縮めることができる。また、毎週行くイベントを話し合い、待ち合わせをする手段がメール等であったため、お互い顔を合わせてする会話だけでなく、文字で自分の気持ちを伝え、相手の言っていることを読み取りながら連絡をうまく取り合うというのもこのプログラムを成功させる一つの課題でもあったと考える。